

天平衣装に変身して
東大寺に現代の金を献納―



1月号の主な掲載記事

- ☑年頭のあいさつ P. 2
- ☑涌谷町議会議員一般選挙結果 P. 3
- ☑山形県大石田町との友好交流協定締結10周年 ... P. 4
- ☑苦難の一年となった金のいぶき P. 6

財政非常事態宣言解除後の 新時代わくやへ

明けましておめでとうございます。町民の皆様にはお健やかで輝かしい新春をお迎えのことと、お喜び申し上げます。

また、日頃より町政運営に対し、温かいご支援とご協力を賜りまして、心からお礼を申し上げます。

全世界で猛威をふるっておりました新型コロナウイルス感染症が、二類感染症から五類感染症へと令和5年5月に引き下げられました。涌谷町では、引き下げに先んじて開催したわくや桜まつりをはじめ、わくや夏まつり、秋の山唄全国大会などの風物詩を復活させ、賑わいを取り戻してまいりました。しかし、新型コロナウイルスは、世の中から完全に消えることはありません。引き続き感染拡大防止に努めながら、経済の活性化に努めてまいります。

また、大きく明るい話題として、発令されておりました財政非常事態宣言の解除がございます。皆様のご理解とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。引き続き財政規律を守りながら、将来に大きな負担を残さず、笑顔あふれる涌谷町を目指してまいります。

国民健康保険病院事業におきましては、令和5年2月に初代涌谷町町民医療福祉センター長の前沢政次先生を再びセンター長にお迎えし、病床数のダウンサイジングなどによる経営改善に努めながら、明るく優しく接し、どのような患者様も引き受けることで、皆様に愛される町立病院となるよう、医療従事者と職員が一丸となり改善に取り組んでおります。

令和5年の明るい兆しを基に、令和6年は日本初の産金の地・涌谷町が、さらに輝きに満ち溢れた1年となるよう、さまざまな事業を推進してまいります。

まず、農業振興におきましては、高付加価値農作物への転換の推進として、令和5年に涌谷町内で作付面積が120ヘクタールを超えた「金のいぶき」を、日本初の産金地・涌谷町を象徴するブランド米として栽培を推進するとともに、不安定な世界情勢を受けて需要が高まっている国内産飼料作物「子実用トウモロコシ」も生産者の皆様と民間企業とで手を携え、麦・大豆に加わる輪作作物とすべく、大区画化・汎用化させたほ場で栽培の実証を進めているところであります。商工業におきましては、最高値を更新する金相場の影響もあり、日本初の産金の地・涌谷町がマスメディアから再注目されています。その歴史や文化を保存

するだけではなく、自然の沢での砂金とり体験や、「金のいぶき」や「金にら」、「黄金レモン」といった黄金食財の開発など、さまざまな取り組みへと活用し結実させていきます。日本遺産「みちのくGOLD浪漫」構成市町では、行政だけではなく、民間事業者様による産業振興に資する取り組みが活性化してきております。令和6年度は、日本遺産再認定にかかわる総括評価の年でもあります。文化庁によって重点支援地域に指定されるよう、一層の取り組みの深化を図ってまいります。さらに令和6年6月には、念願でありました株式会社ウェルファムフーズ様の鶏肉加工工場が操業開始となります。町としては、関係機関と連携しながら株式会社ウェルファムフーズ様のブランドの鶏肉「森林どり」を使った商品開発を進めるなど、新たな魅力づくりを推進してまいります。

少子化による人口減少への歯止めの一つとして、多様な保育ニーズに対応する町立幼稚園での預かり保育事業を継続していくとともに、令和5年春に新たに開設された民間認定こども園こどもの丘や修紅幼稚園舎、涌谷保育園にもご協力いただきながら、子育てしやすい環境づくりを図ってまいります。

令和5年は、幸いにも涌谷町では大規模な災害が発生することはありませんでしたが、令和4年7月には出来川が決壊する豪雨災害が発生しております。今後いつ大雨が降っても再び同様の被害が生じないよう、宮城県に働きかけ、県におきましては、出来川の堤防改修工事に早期に着工していただいているところであります。防災の要となる消防団の強化を図りながら、実践的な住民参加型の総合防災訓練を実施するなど、防災意識の高揚に努めてまいります。

これからは、「住んで良かった」と思っていただけのような持続可能な涌谷町を着実に実現するとともに、それらの取り組みを呼び水として交流人口・関係人口・定住人口の増加につなげ、新時代の涌谷町が、より多くの笑顔であふれるように努めてまいりますので、町民の皆様には一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、新年が町民の皆様にとりまして、希望あふれる素晴らしい年になりますように、心からご祈念を申し上げまして、年頭の挨拶といたします。

涌谷町長
遠藤 釈雄

「黄金食財」とは、日本遺産「みちのくGOLD浪漫」の取り組みにおいて、みちのくの金のストーリーに関連性のある食材を指す造語です。

12月17日執行涌谷町議会議員 一般選挙開票結果

新議員13人の顔ぶれ

12月17日(日)に、任期満了に伴う涌谷町議会議員一般選挙の投票が、町内10カ所の投票所で行われました。即日開票の結果、新議員13人が選ばれましたので紹介します。(50音順 敬称略)

今回の選挙は定数13人に対して、17人が立候補

- ▶選挙の問い合わせ先
涌谷町選挙管理委員会 ☎ 43-2111
- ▶町議会の問い合わせ先
涌谷町議会事務局 ☎ 43-2171

しました。投票率は54.40%(前回54.91%)となりました。任期は、令和6年1月1日から4年間です。議会では、皆さんの傍聴をお待ちしています。日程などの詳細は、議会事務局にお問い合わせください。



いちじょう ゆうたろう
一條 裕太郎
(38才・城山区・1回)



いとう まさいち
伊藤 雅一
(87才・脇区・5回)



いなば さだむ
稲葉 定
(71才・猪岡区・3回)



おおいずみ おさむ
大泉 治
(70才・2の2区・7回)



くろさわ あきら
黒澤 朗
(61才・7区・2回)



ごとう よういち
後藤 洋一
(73才・10区・4回)



ささき としお
佐々木 敏雄
(70才・日向区・3回)



ささき みさこ
佐々木 みさ子
(71才・上町区・3回)



すぎうら けんいち
杉浦 謙一
(54才・5の1区・5回)



たけなか ひろみつ
竹中 弘光
(66才・9の3区・3回)



ただの じゅん
只野 順
(72才・上谷地区・4回)



にかみ みつこ
二上 光子
(61才・黄金区・1回)



もんでん よしのり
門田 善則
(65才・小里区・6回)

【投票率】

	当日 有権者数	投票者数	棄権者数	投票率	前回の 投票率
男	6,338人	3,410人	2,928人	53.80%	54.75%
女	6,559人	3,606人	2,953人	54.98%	55.06%
計	12,897人	7,016人	5,881人	54.40%	54.91%

【候補者別得票数】

	氏名	得票数		氏名	得票数	氏名	得票数
当 選	一條 裕太郎	911票	当 選	杉浦 謙一	404票	佐藤 徳彦	206票
	佐々木 敏雄	673票		竹中 弘光	331票	小野寺 孝	187票
	二上 光子	628票		門田 善則	317票	志子田 和幸	22票
	佐々木 みさ子	615票		稲葉 定	311票		
	大泉 治	506票		只野 順	310票		
	後藤 洋一	494票		伊藤 雅一	298票		
	黒澤 朗	462票		涌澤 義和	267票		
						有効投票総数	6,942票
						無効投票総数	74票

10周年記念特集

宮城県涌谷町が きた友好の絆きずな

続く両町の友好交流
はなく、災害支援など
て絆を深め合ってきた両町
ながら、次の10年へ



有事の備えとして結んだ 友好交流協定

山形県大石田町と宮城県涌谷町は、平成25年9月20日に友好交流協定を締結し、令和5年9月20日で協定締結10周年を迎えました。

平成23年に発生した東日本大震災を受け、大規模災害が発生した際に、助け合える相手を先を探していた両町に、旧知の仲の職員がいたことがきっかけとなり、当時の庄司喜興^{きよむね}・大石田町長と故安部周^{しゅう}治涌谷町長の時代に協定締結に至りました。

その協定締結を皮切りに、今日に至るまで、行政レベルだけではなく、住民同士の間さまざまな交流が行われてきました。

子どもたちによる交流

平成26年2月に、涌谷町立涌谷中学校の生徒たちが大石田町を訪問し、除雪ボランティアをはじめ、涌谷町では体験できない雪国の生活を体験する事業が行われ、その年の夏には、大石田町の小学生が涌谷町を訪問し、砂金とり体験などを通じて涌谷町の歴史文化にふれました。さらに、両町の少年野球チームの交流戦が同年に初開催され、コロナ禍をはさみ、現在も交流が続いています。

大人たちの文化の交流

毎年夏に、大石田町のメイイベントとして開催される大石田まつりの前夜祭・維新祭に涌谷町のすずめ踊りチー

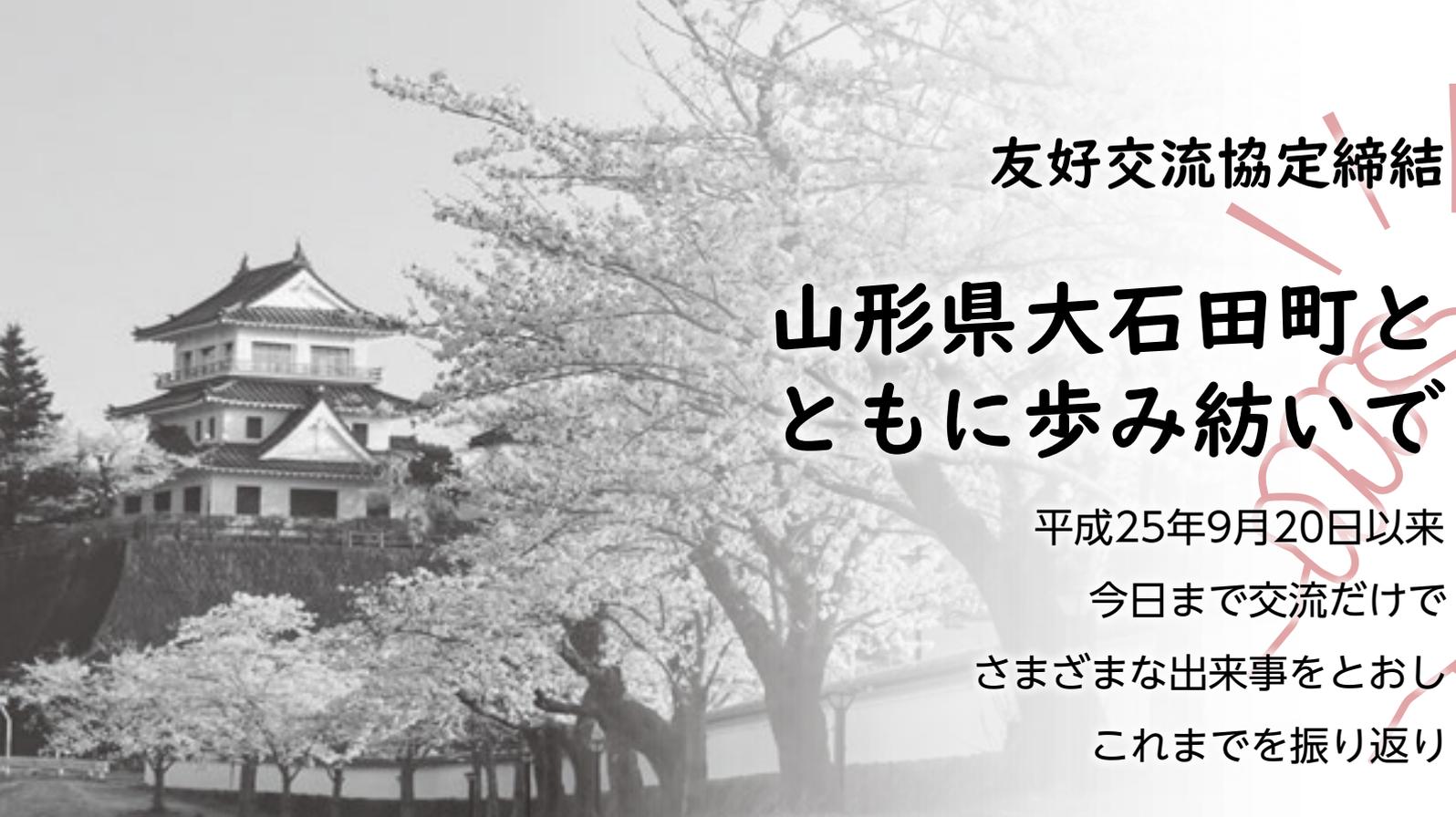
ムの方葉さくら組が出演し、平成27年の涌谷町のわくや桜まつりには、大石田町の阿波踊りチームの最上川芭蕉連^{もがみかわばしろうけん}が出演して、両町のまつりを大いに盛り上げてきました。以降、涌谷町からは、涌谷太鼓も出演するようになり、交流の輪が広がっていきました。

また、涌谷町の秋の風物詩・秋の山唄全国大会には、平成26年から大石田町の木村里美^{むくりみ}さんが出場し、平成30年に優勝を果たし、両町の交流の象徴となりました。令和5年からは、大石田町民謡研究会副会長の芳賀清^{よしひら}さんが秋の山唄全国大会の審査員を務めています。

友好交流協定締結

山形県大石田町と ともに歩み紡いで

平成25年9月20日以来
今日まで交流だけで
さまざまな出来事をおし
これまでを振り返り



産業をとおして 互いの存在をそばに感じる

交流事業の中で特に人気を博しているのが、わくや産業祭に出展する大石田町特産の手打ちそば実演会です。打ち立て・ゆでたてのそばを味わえる特設ブースに、毎回長蛇の列ができ、舌鼓を打っています。

涌谷町からも大石田町の新そばまつりに出展し、物販をしながら、出張砂金とり体験コーナーを設け、涌谷町の日本初の産金の浪漫を感じてもらっています。

まちづくりを知る交流

両町のイベントへの参加以外にも、両町の役場職員や議会議員による交流研修会が行



われてきたほか、民生委員児童委員や農事実行組合連合会、地域おこし協力隊などが交流・連携し、それぞれの町でどのようなまちづくりが行われているのかを知り、切磋琢磨してまいりました。

災害時の相互支援

さまざまな交流を通じて絆を深め合ってきた大石田町と涌谷町。友好交流協定の本来の目的となる有事の際の相互支援も、この10年の間に、たびたび実践してきました。

令和元年に発生した東日本台風の際には、大石田町から有志が駆け付け、被災した家屋の濡れた畳の搬出などに携わり、令和2年に発生した最上川の水害の際には、涌谷町



から1週間以上にわたって職員が派遣され、給水支援にあたりました。令和4年に発生した福島県沖地震で断水となった涌谷町に大石田町から飲料水の提供と給水活動の支援があり、災害時の生活基盤を支えあってきました。

協定締結10周年企画

友好交流協定締結10周年を記念し、Instagram上で、優秀作品を投稿した人に、両町の特産品を贈呈する写真コンテストを実施しています。お互いの町を訪問し合いながら、奮ってご参加ください。





②



③



⑤



苦難の一年となった

金のいぶき

前例のない酷暑が涌谷町の米づくりの匠たちを震撼させた令和5年。積み上げてきた栽培マニュアルを打ち砕いた想定外の事態に、収穫量・品質がともに大きく落ち込みました。苦難続きとなった金のいぶきの1年をレポートします。



令和5年の金のいぶき栽培の様子をまとめた映像を左記QRコードからご覧いただけます。



①



④

災害級の酷暑がもたらした穂発芽による収量・品質の低下
 令和5年の夏は、誰しもが鮮明に記憶する過去に類を見ない酷暑の夏でした。その影響は稲作全般に及びましたが、金のいぶきも大きな被害を受けました。連日、雨が降らない酷暑の日が7月・8月と続き、9月中旬になってようやく降った雨が、倒伏していない稲も含め、収穫間近のみ米を発芽させる穂発芽を生じさせました。穂発芽してしまった金のいぶきは、一般的な玄米に比べてGABAやビタミンEなどの栄養素が豊富に含まれている大きな胚芽の部分に黒い斑点ができてしまい、玄米食で食べる金のいぶきがゆえ、収穫した約5割が規格外扱いとなりました。この被害は、涌谷町のみならず、宮城県内全域で発生。
 前例のなかった令和5年の酷暑でしたが、日本初の産金地・涌谷町を代表する黄金食財として、ブランド米として栽培を引き続き推進していくためには、温暖化によって今後常態化するおそれがある酷暑への対応を追求していく必要があります。



⑨



⑦



⑧



⑥



⑩



⑪

【写真解説】

①東大寺大仏殿内に篁岳白山小5年生児童が作成した横断幕とともに捧げられた金のいぶき②涌谷町の児童の訪問を笑顔で出迎えてくださった橋村公英別当③航空自衛隊奈良基地の隊員が勇ましい兵衛隊となり先頭をいく④大仏殿前で橋村別当をはじめ東大寺の僧侶の皆さまが法要⑤東大寺南大門付近を通過する金のいぶき⑥凧として行列に参加する代表児童⑦美しく着飾った女官長⑧古都の文化を醸し出す雅楽隊が随行⑨外国人観光客の注目を特に集めていた光明皇后⑩奈良住みます芸人エナジー西手さんが務めた聖武天皇⑪金のいぶきが児童の誇りを育む

現代の金として
金のいぶきに注力する意義

金のいぶきにとって苦難の

一年でしたが、篁岳白山小学校5年生児童が栽培した金のいぶきは、涌谷町の現代の金として、令和5年も奈良東大寺の大仏殿に献納されました。学習田での栽培を通じて、

涌谷町の主要産業の一つの農業を体験しながら、日本初の産金地としての歴史・文化に触れました。そして、代表児童2人が、高橋宏明涌谷町副町長と金のいぶきの生産者とともに11月3日(金)に奈良市を訪問。さらびやかな天平衣装をまとって平城京天平祭東大寺参詣に参列し、東大寺大仏殿へ金のいぶきをお届けしました。稲穂や米俵を担いだ姿は、コロナ禍を経て回復した日本人や外国人の観光客から注目を集めていました。

金のいぶきは、産業面で収益性の高い農作物でありながら、日本初の産金地としての歴史文化を伝え、誇りを育む役割も担っています。

この苦境を乗り越え、再び輝きを取り戻すよう、生産者と農協、行政が一丸となり取り組んでいきます。